

胃がん検診（地域）

動 向

平成28年度住民対象の胃がん検診の受診者数は14,664名で、受診者数は前年比で760名減少した。

「有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン2014年度版」（国立がん研究センター がん予防・検診研究センター）によれば、胃内視鏡検査が対策型検診および任意型検診における胃がん検診として推奨された（推奨グレードB）。

神奈川県内の33市町村のうち胃内視鏡検査を導入しているのは6市、いわゆる「胃がんリスク検診」を導入しているのは18市町村である。

なお、協会は「神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会」の事務局として、県内の一次検診実施機関が実施する消化器がん検診の精度・技術の向上のために協力している。同協議会は、平成28年3月に横浜で開催された「日本消化器がん検診学会関東甲信越支部第48回放射線研修委員会学術大会」の運営等に協力した。

方法・結果

日本消化器がん検診学会より「新・胃X線撮影法ガイドライン 改訂版（2011）」が発行され、当協会でも、そのガイドラインに基づいて胃X線検診を行っている。

胃がんX線検診受診者数は14,664名で、前年比で760名減少した。検診を行う市町村数に変化はないが、厚生労働省により、胃がんの内視鏡検診が認められ、胃がん検診は内視鏡でと考える市町村、住民が増加してきている可能性がある。要精検者数は1,137名、要精検率は7.8%であった。これは、前年度の要精検率6.3%より1.5%上昇した。精検受診者数は809名、精検受診率は71.2%で、前年度の精検受診率71.6%よりも微減していた。がん発見数は15名で、がん発見率は0.102%、陽性反応適中度は1.32%であり、がん発見率は何とか0.1%を超えた。前年度のがん発見率は0.136%、陽性反応適中度は2.15%であり、両方とも低下した（表1参照）。胃がんの死亡率は減少してきているが、胃がん罹患数はまだ横ばい状態である。平成28年度のがん発見率は低

下してしまったが、来年度以降のがん発見率の動向を見守っていきたい。

日本消化器がん検診学会による平成26年度消化器がん検診全国集計（表2）によると、地域検診における要精検率8.1%、精検受診率81.1%、がん発見率0.147%であった。当協会での成績は、要精検率、精検受診率、がん発見率ともに低くなっていた。

胃がん検診に、内視鏡検診が認められるようになって、X線検査による胃がん検診が重要であることに変わりはない。今後も、検査の安全性を維持しつつ、撮影・読影の精度の向上をめざし精進していきたい。

表1 胃がん検診（地域）

年度別要精検率・精検受診率・がん発見率

	28年度	27年度	26年度	25年度	24年度
受診者数 N	14 664	15 424	18 331	18 144	18 337
要精検者数 X	1 137	977	1 132	584	1 779
要精検率 X/N (%)	7.8	6.3	6.2	3.2	9.7
精検受診者数 Y	809	700	808	354	1 290
精検受診率 Y/X (%)	71.2	71.6	71.4	60.6	72.5
がん発見数 Z	15	21	24	14	23
がん発見率 Z/N (%)	0.102	0.136	0.131	0.077	0.125
陽性反応の中度 Z/X (%)	1.32	2.15	2.12	2.40	1.29

表2 地域・職域検診別の検診成績

平成26年度消化器がん検診全国集計より

	地域検診	職域検診	その他	計
検診数	2 499 553	3 623 474	559 565	6 682 592
要精検者数	203 574	197 794	26 715	428 083
要精検率	8.1%	5.5%	4.8%	6.4%
精検受診者数	165 177	89 458	14 987	269 622
精検受診率	81.1%	45.2%	56.1%	63.0%
発見胃癌数	3 669	1 086	286	5 041
発見率	0.147%	0.030%	0.051%	0.075%

関係の集計表は80頁に掲載